

所 感

貴族院議員 荒井 泰治

實は私は此の聖徳記念學會に参加を御願ひ致して居りまするのは命の洗濯以上の精神の洗濯を致し度いと云ふ考から博士方學士方其他皆様方の御講話を拜聴致し度いと思ふからであります。自分は日夕俗人の間に出入致して居りまする腹でありますから、多少其腹を清めたいと云ふ精神から參加を願つて居りますので、今日自分がお話を致す材料と云ふものは勿論何に一つ持つて居りませぬ然る所過日加藤博士より學問上の話、又研究上の話は常にやるが、偶には方角の違つた實業上の話抔も亦一面から云へば脂の多い物を食つた後で薩張りした野菜を食ふ様なものだから何か一つ是非話して呉れとのお話で御座いましたので、前申上

げた様な次第でありますから、實は私は當惑を致しました。而も其の注文には、お前は長く臺灣に居るから、所變れば品物も變ると云ふ様な譯で、それに因んだ話をせよと云ふお話で御座いまして尙々窮しました。實は臺灣には十六年間も參つて居りまして、仕事は始終致して居りますが、初から今日に至る迄事業上のこと許り致して居りますので、或は砂糖の話であるとか、樟腦の話であるとか、若くば鹽を製造致しまする鹽田の話であるとか、又或は熱帶植物の話とか云ふ様なことを申しますれば、多少は實驗致しましたことも御座いまするし話の材料にもなりませうけれども、斯様のことを此の席で申上ますのは丸で方角違で御座いまして、何だか此の會に因あることを申上げなければ相濟まぬと思ひまして、千思萬考致しましたが、適當の考が浮びませぬで、殆ど當惑致しました。就きましてはツイ最近のことに就て多少感じましたことが御座いますから、それをお話致さうと思ひます。題は何と云ふ題にするかと云ふお話が先日ありましたが、どうも材料がないのであ

るから題の附け様がない、強ひて題を附けるならば所感とでも附けて置いて頂き度いと申上げて置いたのであります。

近頃同化會と云ふものが臺灣に出來ました。臺灣人を日本の習慣に同化させ及び日本の人民の承けて居るところの幸福を等しく彼等にも承けさせ日本人の精神として居る處のものを彼等に移し植へたいと云ふところから同化會と云ふものが組織になりました、其の總裁に板垣伯を戴かれました。ツイ昨年秋頃臺灣に於て之れを發表せられました。此の五六日前に發會式を舉げられました御座りませうと思ひます。然る所此の會が存外振ひませぬ。非常に熱心なる板垣伯が總裁となつて居られるに拘らず少しも振はない。是れは私は本會杯に對して多少の參考になり、又考を及ぼすべき一つの材料ではないかと思ひます。

支那民族は吾々日本人とは餘程違つて居りまして、此の聖徳記念學會の先輩方が御發起になつて吾々がそれに參加致しましても、伺ふ所のものは皆數千年前よりの歴史であつても辿つて參ります

ると、其の發源は一つである。即ち唯今拜聽致しましたる御講話の中にある和歌の如きも、其の系統が整然として神代から傳はつて居る。之れを辿つて參りますると我が國粹と云ふものが、其處に明かに見へて居ります。支那民族は御承知の通り歴史上據る所が乏しいので、彼等の國體と云ふものが何に據つて居るか、彼等の主張すべき根本が何處に基いて居るか、と云ふことになりますと、誠に材料も乏しい譯で御座いまして左様な系統がなく又人民は國家制度の下に國家と云ふ纏つた觀念が乏しく、殆ど個人主義で西洋人に稍、類して居ります。即ち一國と云ふよりは一家、一家と云ふよりは己と云ふ様な習慣になつて居りますから、或は我が國の尊ぶべき習慣即ち國家主義なら國家主義、家族主義なら家族主義を持ち行きました彼等に鼓吹致しましたら這入り得ることであらうと信するのであります。然らば此の同化會の如きも結局は目的を達すべきである。又吾々も彼等に統一したる、慣習觀念がないのであるから是れに我が良習慣我が良制度を吹き込んで同化させると云

ふことは、素より日夕念じて居らなければならぬことでありまして、結局は其の目的を達すべきものであらうと云ふ確信を致したのであります。其の板垣伯の統率されます同化會も今日は至つて歓迎せられず、伯がお出でになつて旅館にお宿りになつても門前雀羅を張つて訪問客が殆どないと云ふ様なお氣の毒な有様であると云ふことを通信によつて承つて居ります。

是等は何によるかと云ひますと、悲しいことには民族を異にして居る結果である。臺灣人其のものも餘り同化されることを歓迎しないのである。又臺灣に赴いて居ります日本人仲間、是れは利害關係から歓迎しないのである。其の利害とは何であるかと云ふと、臺灣人と云ふものは所謂支那人であつて非常に個人的思想に富んで居つて勝手なものである。其處へ同化と云ふことを最初から標榜して而して日本には國會と云ふものもある國會の下に府縣會がある、府縣會の下には町村會があると云ふ様なことを之れに吹き込むと云ふとさなきだに生意氣になつて反抗心を起す。或は田

舎で巡査から説諭をされても、巡査は人民保護の爲の機關であつて吾々をサーベルで脅すべき人ではない、吾々が幾ら反抗してもサーベルで打たれる心配はないと云ふ様なことに計り趨つてなかく統御の上に困難を感じる。植民地を經營することに就ては素より巡査の権力も唯今申す様なことではありませうけれども、此の曖昧なる人民に對して頭から生意氣なる所のを吹き込むのは如何であらうと云ふのが是れが臺灣に居ります、日本人の一般の感想になつて居ります。又臺灣人の方から申しますると未だ舊治の夢が覺めませぬ。矢張り民族の異なる所から日本人に統御され日本人の支配を受けると云ふことが彼等の心には未だ落ちない。例へば日本の忠義は斯う云ふことである、何は斯うであると云ふても、それに反抗こそすれ、腹の中では喜んで居らない。即ち民族の違つて居るものが、互に敵愾心を有つと云ふことは支那人の無主義無方針なる人民でさへもなかく強いのであります。

一例を申しますと、私が臺灣に参りまして、彼

の地で可愛がつて使て居ります僕がありますが日露戦争の時に、今度の戦争は日本が勝つと言ふ私共に使はれて居るから矢張り吾々の肩を持つのでありませうが日本が勝つと言ふ。さうすると其の親は、イヤ決して日本は勝たない、日本は豆粒の様な國で露西亞は棒程の大きな國であるから決して日本の勝つ氣遣はないと言ふ。其處で賭をした。其の賭が面白い。私の使つて居ります其の僕が、それならば日本軍が勝つたら自分は斬髮になつてよいかと言ふ。宜しい、と。それから若し親の方が勝つたならば親の言ふ通り如何なる事でもすると云ふので、さう云ふ賭を致しましたが遂に首尾よく日本軍が勝ちました、爲めに彼は率先して斬髮をした様な次第であります。それから臺灣のことを多少通信によつて御覽になり若くば彼の地へお出の方は御存知でありませうが、今日小學校を公學校と稱へて居りますが、此の公學校へ生徒を集めずにはなかく難儀を致したものであります。やうく此の二三年は幾分か樂になりましたが、それ迄と云ふものは、其の學校の教師

の一番の勤めは、校舎に於て生徒に教へまするよりも、其の生徒を學校へ出校させることを勧誘して歩く方に骨が折れた。朝から廻はつて歩いて、どうだお前は未だ學校へ行かぬか、早く行けと云ふ様にして廻つて歩かなければならぬ。と云ふのは、臺灣に於きましては教育は婦人の手で致しますので、此の婦人が極めて朦昧なるものでありますから矢張り其の舊習慣に泥んで、昔の日本で申せば寺小屋へやることを好んで、而して小學校へやつて教へらるゝことを甚だ忌ふて居ると云ふ有様であつた。今日では臺北、臺中、臺南、と云ふ様な都會になりますとなく、小學校も益んになりましたが、少し片田舎になりますと今日と雖も未だ子供を出さない。教員が五人あれば三人は學校に於て教授を爲し他の二人は生徒を驅り集める即ち羊を追出す様に子供を追出して歩くと云ふことに力を盡さなければならぬと云ふ有様である。なかく、衷心安んじない所があるのであります。是れに就て如何に未だ彼等の歸服する度合が乏しいかと云ふことを證明するのであります。

唯今の臺灣總督の佐久間大將は斯う云ふことすらお考へになつて居られる。臺東と云ふ土地は背に中央山脈を負ひ、前に海岸山脈を負ふて居る。此の東と西との交通は天然の要害を爲して居る。而して此の臺灣の四百萬の民族と云ふものはなか／＼容易に日本人に歸服したとは云はれないのであるから、一朝有事の日に本國と臺灣との交通を絶たれた時には此所に居る所の十二三萬の日本人と云ふものは、餘程心細い次第である。然る場合には是非とも臺東に立籠つた方がよい。此所に立籠つて居れば、即ち交通上から云つても又山の嶮岨から云つても百萬以上の臺灣人を防ぎ果うせられるであらう、其れ故に此の臺東と云ふ所は決して臺灣人若くば支那人の勞働者を移住させてはいかぬ。是れは是非共日本から移民を少くとも二三萬は移住させて人口を移植することが必要である。斯う云ふので年々三四十萬圓の金を遣つて百五十戸なり百三十戸なり増殖させて居る。既に四五年以來其の移民事業を行つて居られます。此の移民事業の得失は別問題であります、兎に角彼

の地に居られる人々はそれ程御心配になつて居られる。是れは民族の相違から來て居るのであります。

斯の如き民族の相違からして支那人の如き無主義無方針なる者でも其の考が違ふと云ふことが一方に判りますれば、それだけ私は日本の如き系統の正しい所では、所謂民族の粹の粹なる所を發揚し涵養致しましたならば一層其の効果が熱烈に舉がるであらうと云ふ感を深う致しました。寧ろ臺灣に於ては今日の小學校の生徒が中學校に入り、中學を卒業した場合に於ては即ち同化の幾部分を及ぼすことが出來ませう、けれども、其の同化の及ぼす所が或は仁義とか孔子の道とか、即ち孔孟の道を以て東洋では斯の如きものである、我が日本も斯の如きものである、と云ふことを以て彼等を先づ東洋と云ふ大きな環の中に入れて之れを同化しなければならぬと思ふのであります。

臺灣については其れでございませう、それと反對に私は又日本の國情については——殊に今回の如き大戦争が勃發致しまして、露西亞なり英吉利

なり友達になつて獨逸一人を敵にしたから、マア損はなく得があるやうに見えて居りますけれども、其處が民族の相違と云ふことがありますから乃ち黄色と白色との色別の如きも亦再び何れからか唱道されることはないか。苟も系統を正くして居りまする六千萬の人民のある所でございましたならば、益々當學會の如きものを旺盛にして研究に研究をお積みになりましたならば非常なる効果があるであらうと確信致す次第であります。

又それとは話が少し違ひますが、此の會に於て豫て諸先生方が、或は昔からの祝詞に就て我が國粹の本を探られ、或は神々の神體に就て考究せられると云ふ様などで誠に結構なるのであると私は常々考へて居りましたが、偶々臺灣に於て感を深う致した一つの逸話が御座ります。それは何であるかと申ますと私がシャウチリンを探檢致しまする爲に生蕃山に深く這入りまして諸方を探檢して歩きました時に、嘉義廳の田舎で見たとであります今日では阿里山が官營になつて材木を出すようになりましたから大分開けましたが、私が歩いた時に

は未だそれ程開けて居りませぬで、あの邊一帯の蕃社に參りまして、生蕃屋に泊りますと、必ず日本と同じ様に圍爐があつて皆其處へ集まつて暖を取り且芋を炙つて食べると云ふ様な家屋の構造になつて居る。其の圍爐の片隅にまん丸い石が必ず一つづゝある。而して芋を焼いて食ふ時には必ず先づ其の石に捧げる、或は酒を飲む時には酒を石にかけると云ふとを行つて居ります。最初の中は餘り氣着きませんでした、段々歩いて居ります中に、何處でも同じことになつて居りますから、此の丸石は一體何んだと尋ねました、所が、蕃人の通譯が、是れに就て面白い話をします、是れは五チャウと云ふ者である。五チャウとは即ち五シャウと書くのであつて、それは生蕃の通譯者であつた。是れが今を去る事恰度四五十年前に生蕃の通譯をして傍ら醫者の術を知つて居つた、それ故に誠に生蕃人の信用を厚くして、乃ち物品の交換をする時にも彼が仲立をして便宜を與へて居つた、又病む者があれば藥を與へると云ふ様な譯で非常なる信用を

得て居つた。併して彼は何かして生蕃人の首狩の習慣を止めさせたいと云ふことを熱心に考へて常に生蕃人にそれを語つて聞かせるけれども、なか／＼生蕃人はそれを止めなかつた。或時甲の蕃社と乙の蕃社とか争鬪を始めて、雌雄を決する爲め先づ例の首狩に出懸ける其の時彼は意を決して兩方の蕃社を集めまして、暫く待つて呉れ、さう無理なことをせぬでも簡易に首を得ることを以てお前達の雌雄を決しさせるからと云ふので、例へば來る十日ならば十日迄待つて呉れと云ふので兩方とも承諾した。然るに其の日になつて兩方の蕃人が出て來て、さう首を呉れ、何處へ行つてどうしたらお前の云ふ様に容易に首が得られるか。簡單なる方法で首を得られると云ふから、少し待つて居つたが、どうするかと言ふ。所が、彼は外ではない。即ち吾輩の首をやるのである、是れが一番簡單である、平生私はお前達に向つて人の首と云ふものは決して取るべきではない、雌雄を決するならば人間の首を取らずも鹿の首を取るなり或は山豚の首を取るなりしても矢張り首は首である

人が命を惜むことはお前達が自分の命を惜むと同じである。然るにそれがお前達には判らないから仕方がない。私の首をお前達に渡す。併ながら私は神に非常に念じてゐるから私の首を取る以上はお前達は餘程覺悟をしなければならぬぞ、餘程の天罰を蒙るものと覺悟しろと云ふて聞かした時日が迫つて來て彼等の習慣は重いから五チャウの首を叩き切つて持ち去つた。

然る所が神の感應で御座いましたか何か存じませぬが、疱瘡が非常に流行し、流行病が流行る。或は彼は醫者のとに通じて居つたと云ふから四五十年前に重い疱瘡の種を何處からか持つて行つたかは知りませぬが、兎に角蕃社の附近に非常なる疱瘡が流行つて死亡する者が續々あつた。其處で初めて彼等は氣が着いて、成程あれだけ言つたのに吾々は彼の首を切つたのは誠に相濟まなかつたと云ふので其處で五チャウを祭ることにした。即ち此の丸石は五チャウの頭の積りであつて、之れを神として祭つて、即ち圍爐の側に置いて何か彼等が珍しい物を食べる時、又は酒を飲む時には先

づ之れを捧げて祀つて居るのである。斯う云ふ解説を聽いて私は非常に感激したことがあります。是等は僅か四五十年前のことでありますから、段々話を辿つて參りますれば明かにさう云ふ事實が判りますけれども、矢張り野蠻時代には何か記念物がある以上はそれに相當した話があると云ふことに就きまして、一入の感興を催しました次第であります而して此の五チャウに就ては昨年初めて臺灣總督府に於きまして彼の忠烈を嘉して祠を建て、祀ることに致した次第であります。

是等も亦本會の御研究になります材料の一端にならうと存じますのであります。其他臺灣に於きまして何か是れに關聯しましたことを申上げたいのであります。前申した通り如何にも材料が乏しいのでありますから、此の二つだけで御免を蒙りたいと思ひます。尙本會に私共が望みますところは種々なる材料をお集めて御座いますが、どうか將來支那と云ひ臺灣と云ひ、前申します通り家族主義によつて國家を成して行くところの即ち忠孝の道と云ふ様なことは尙御研究でもあら

ますこと、御座いませうけれども、私は東洋の國粹保存として之れによつて個人主義に對抗して行きたいと云ふ考を以て居るのであります。どうぞ此の上とも諸先生方の御攻究を願ひ度い次第であります。甚だ皆様の御邪魔を致して相濟みませぬ、(拍手)

現下の神社對宗教問題

報 道 子

客冬、端なく基督教徒の中より、該問題は爆發の火の手を擧げられしより、神道家の側に在りても亦盛に之に應戦し、甲論乙駁、中には人身攻撃にさへ互らんとする者あるに至れり、斯くの如きは國家の上より見て、實に寒心に堪へざる次第なり。今此問題の解決を、虚心平氣、權勢を恐れず、世俗に阿ねらず、何人にも心の底より諾と云はせる様試みんとするには、抑神社の何物なるか、宗教の何物なるか、神道の果して宗教なるか、畢竟宗